

(現状の説明)

履修に関する指導体制としては、各年度当初に新生を対象とした履修説明会および全学年を対象とした合同履修相談会を実施している。併せて、学部事務室や各研究室などでも個別の履修相談に対応している。また、全教員が週1コマ(90分)のオフィスアワーを持ち、ここでも必要に応じて個別の履修指導を行っている。科目等履修生・聴講生に対しては、その履修許可時に個別に指導・相談を行っている。留年者に対しては、必要に応じて履修指導を行っているが、特にそのための特別な指導機会を設けるなどの対応はとっていない。社会人学生や外国人留学生、帰国生徒については、受け入れの段階で行う面接で指導・相談を兼ね、さらに必要があれば事務室での相談に応じているため、指導機会を特別に設けることはしていない。

(点検・評価の結果)

履修指導については様々な機会は設けているが、必ずしも全ての学生に対してきめの細かい指導ができているとは言えない。さらに目標2で掲げた「履修指導の要点の明確化」も、具体的なレベルでは達成できていない。2003年度からの大幅なカリキュラム改編によって、必要とされる履修指導の内容も大きく変わり、現在その移行期に当たるために、対応すべき問題点が必ずしも明確ではないことが主たる原因である。また、指導を受ける学生の側も、「履修」や「カリキュラム」という問題に対する意識がきわめて高い者から、そうでない者まで、非常にばらつきが大きく、このことも履修指導を難しくしている要因である。しかしカリキュラム委員会を中心に、継続的に問題点の洗い出しが行われており、今後とも改善が期待できる。

(改善の具体的方策)

「カリキュラムの編成」の項目とも連動しつつ、学生の履修の実態や、その問題点についての情報収集と検討を継続し、より具体的な履修指導のモデルを構築していく。

2.1.4.3 教育方法のあり方

【評価項目 6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. マルチメディアの活用や効果的な教材の開発などへの取り組みをさらに促進する。
2. 教育方法について教員相互の情報交換や議論の場を設け、授業改善を図る。
3. 学生による授業評価を積極的かつ効果的に活用する。

(現状の説明)

授業形態は主として講義・演習・講読・実習によって行われ、授業方法は講義科目では主として講義形式によるが、演習科目では講義に加えて履修者による発表や討論による対話形式がとられている。さらに講読科目ではテキストや資料・史料の講読と解説、実習科目では、実験・調査やフィールドワークによる実習など、その科目の目的に適合した様々な方法が導入され、全体として教員から学生への一方通行的な知識の授与に留まらず、学生の理解と達成度が適宜確認できるような方法が工夫されている。

マルチメディアの活用やパワーポイントのような教材提示方法の利用は近年活発になってきており、特に2003年度には学部の専任教員全員に1台ずつのノートパソコンの配備を行って、このような取り組みの促進を図ろうとしている。しかしながら、授業形態は担当者個人の裁量に任されていること、教室設備などのインフラ整備が不十分であるという全学的問題などから、現状ではそれらは十分活用されているとは言えない。

なお、「遠隔授業」については、文学部で開講しているものはないが、文学部教員が中心になって運営・担当している全学開講科目である総合コース科目（総合コース464）が神戸三田キャンパスとの遠隔授業として提供されている。

(点検・評価の結果)

授業形態については、それぞれの授業の目的に即して適切な方法が選択されている。マルチメディアの活用については、現状の説明でも述べた如く、不十分な状況である。

教員相互の情報交換については、「人文演習担当者会議」において一部実現され、また一部の専修や科目においては、自主的な取り組みとして活発に行なわれているところもあるが、多くは教員個別の努力に委ねられている。

(改善の具体的方策)

学生による授業評価の結果を活用し、より良い教育方法について教員側の意識をさらに高めるための方策を検討する。また、授業へのマルチメディアの活用状況などについては、各教員を対象とした調査を行い、その現状と問題点を把握して適宜に対処していく必要がある。今後とも、カリキュラム委員会やFD委員会を中心に、またマルチメディア等に関しては情報環境委員会も交えて、文学部としてさらに教育効果を高めるような教育方法のあり方について、継続して検討していく。さらに、教室などのインフラ整備については、学部として必要な要求内容をまとめ、その実施を求めていく。

2.1.4.4 教育成果のあり方

【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

- (必須要素) 教育上の効果を測定するための方法の適切性
- (必須要素) 教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況
- (必須要素) 教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況
- (必須要素) 卒業生の進路状況
- (選択要素) 教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況